

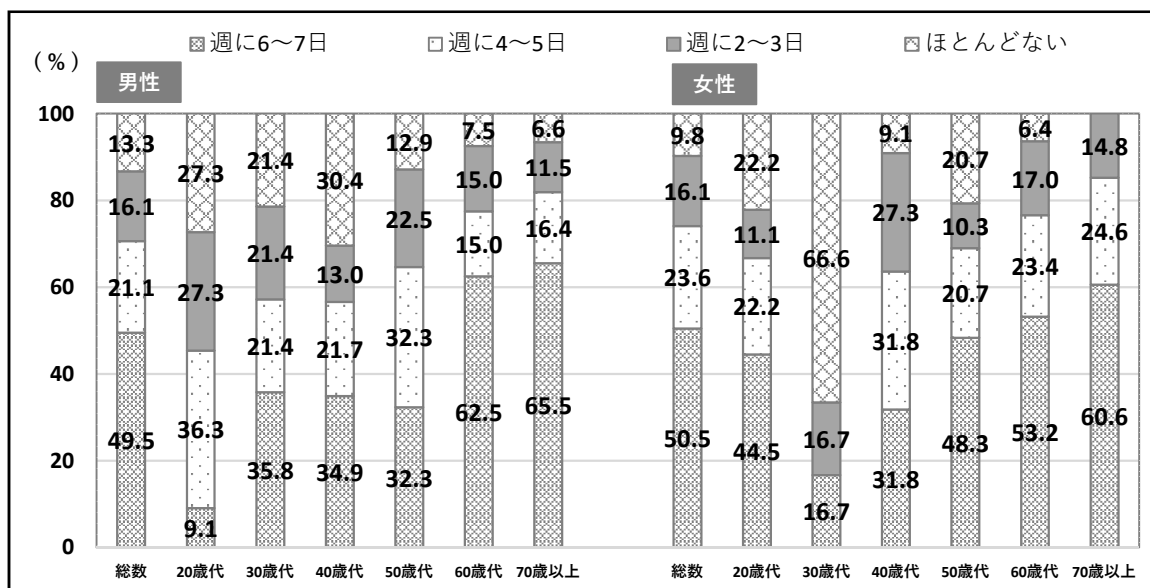
2 健康課題等に関する資料（第4章「食育の推進」のみ抜粋）

・掲載図表一覧

4	食育の推進	45	主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日2回以上食べる頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）
		46	朝食を食べる頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）
		47	児童及び生徒のうち、いつも（毎日）朝食を食べる割合の推移（茨城県）
		48	1日あたりの食塩平均摂取量（茨城県・令和4年・年代別）
		49	家族と共食する割合（茨城県・令和5年・18歳以上）
		50	家族と共食できない理由（茨城県・令和5年・18歳以上）
		51	児童及び生徒の肥満傾向児の割合（茨城県・令和3年度）
		52	食に関する専門家等を活用した授業を実施している茨城県内の学校の割合の推移
		53	外食の利用頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）
		54	中食（持ち帰りの弁当・総菜）の利用頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）
		55	ゆっくりよく噛んで食べる者の割合の推移（20歳以上）
		56	普段の食事で心がけていること（茨城県・令和5年・18歳以上・複数回答可）
		57	学校給食における地場産物活用率50%を超える茨城県内の市町村の割合の推移
		58	茨城県農林水産物取扱指定店数の推移
		59	食品ロスの発生量の推移
		60	茨城県の郷土料理を知っている県民の割合（令和5年・18歳以上）
61	食の安全に関する意識（茨城県・令和5年）		
62	食物アレルギー対応が必要な児童及び生徒が在籍する茨城県内の学校の割合の推移		

図45 主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日2回以上食べる頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）

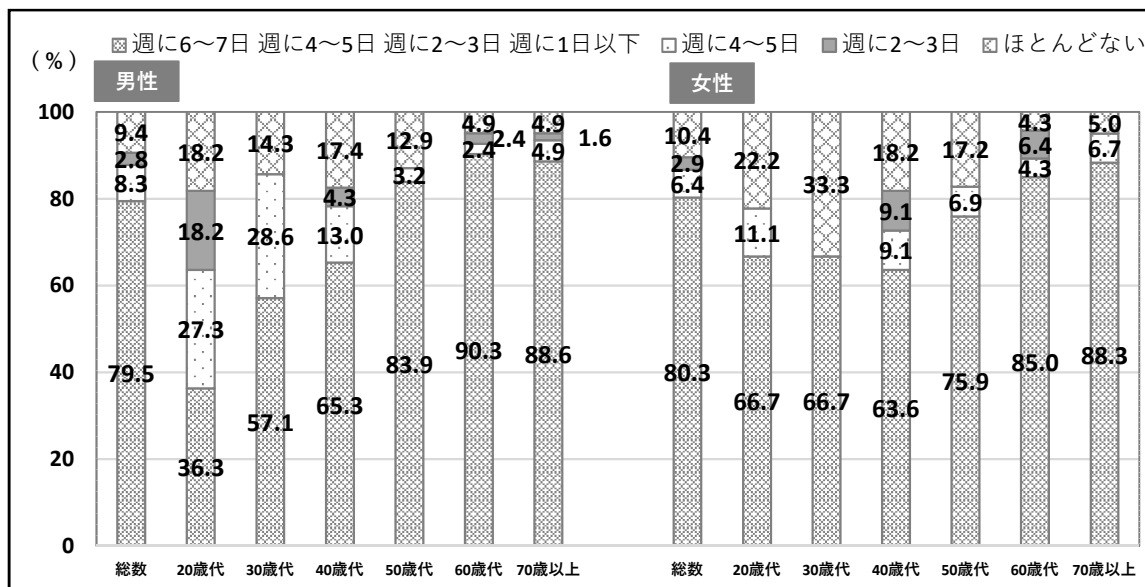
男女とも若い世代の方が主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日に2回以上食べる頻度が低い状況です。



出典 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図46 朝食を食べる頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）

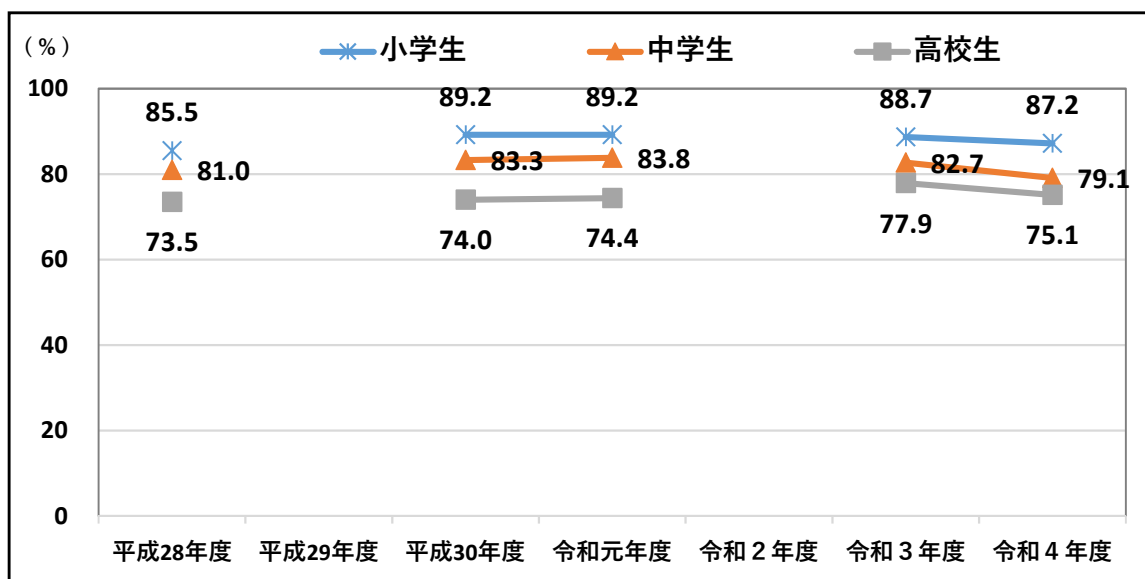
男女とも20~40歳代で特に朝食の欠食率が高い状況です。



出典 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図47 児童及び生徒のうち、いつも（毎日）朝食を食べる割合の推移（茨城県）

令和4（2022）年度は小学生の児童の1割程度、中学生及び特別支援学校の生徒の2割程度が朝食を欠食しています。

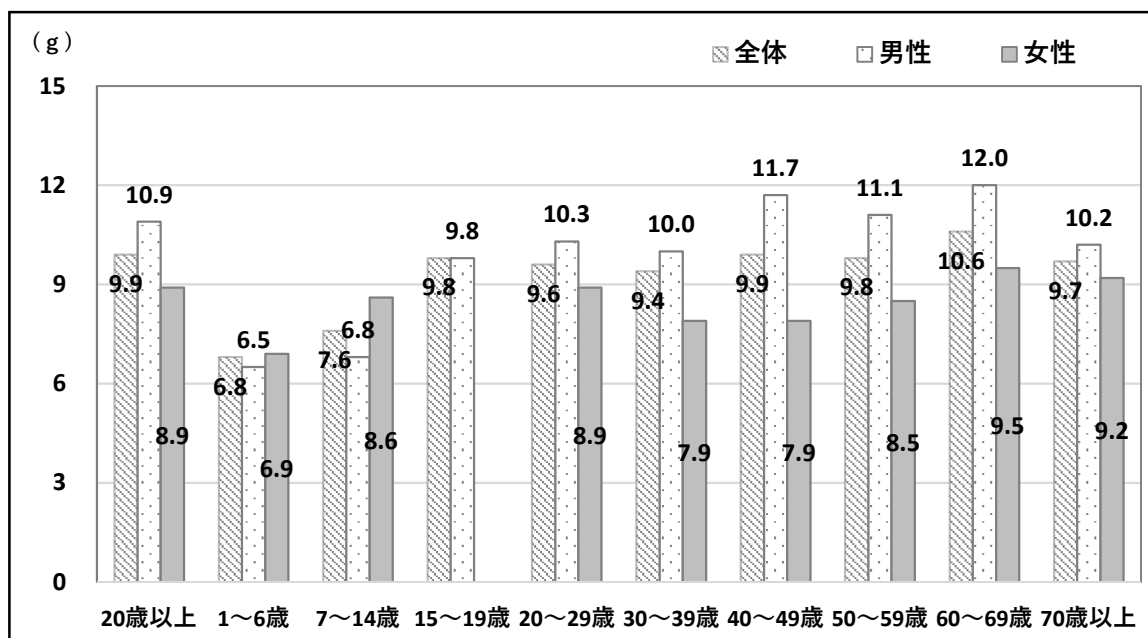


※平成29（2017）年度はデータなし。令和2（2020）年度は調査未実施。

出典 「茨城県児童生徒の体力・運動能力調査」

図48 1日あたりの食塩平均摂取量（茨城県・令和4年・年代別）

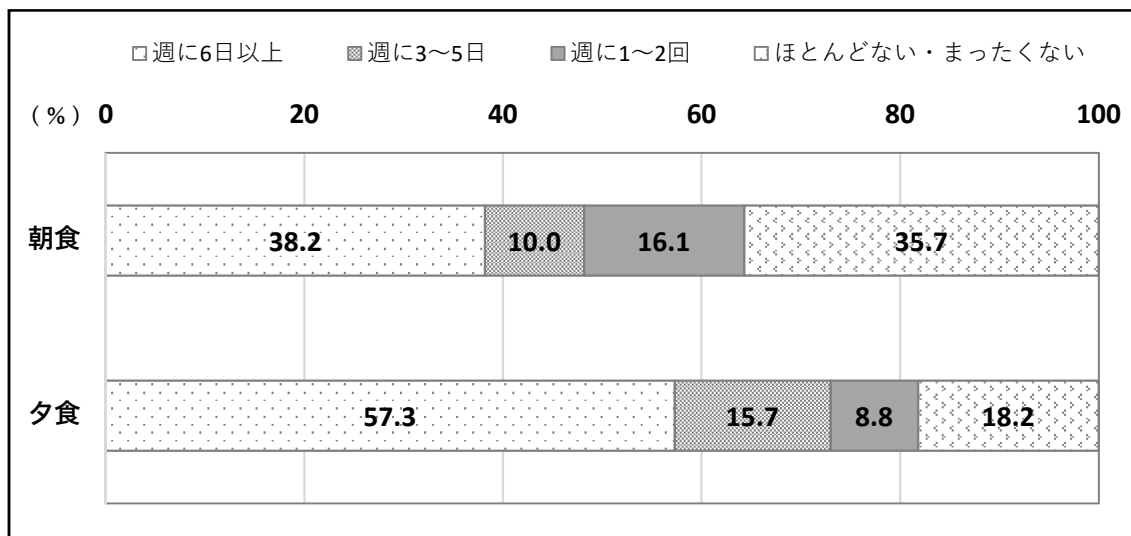
食塩摂取量を年代別にみると、全ての年代で日本人の食事摂取基準（2020年版）の目標量である男性7.5 g未満、女性6.5 g未満を上回っています。



出典 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図49 家族と共食をする割合（茨城県・令和5年・18歳以上）

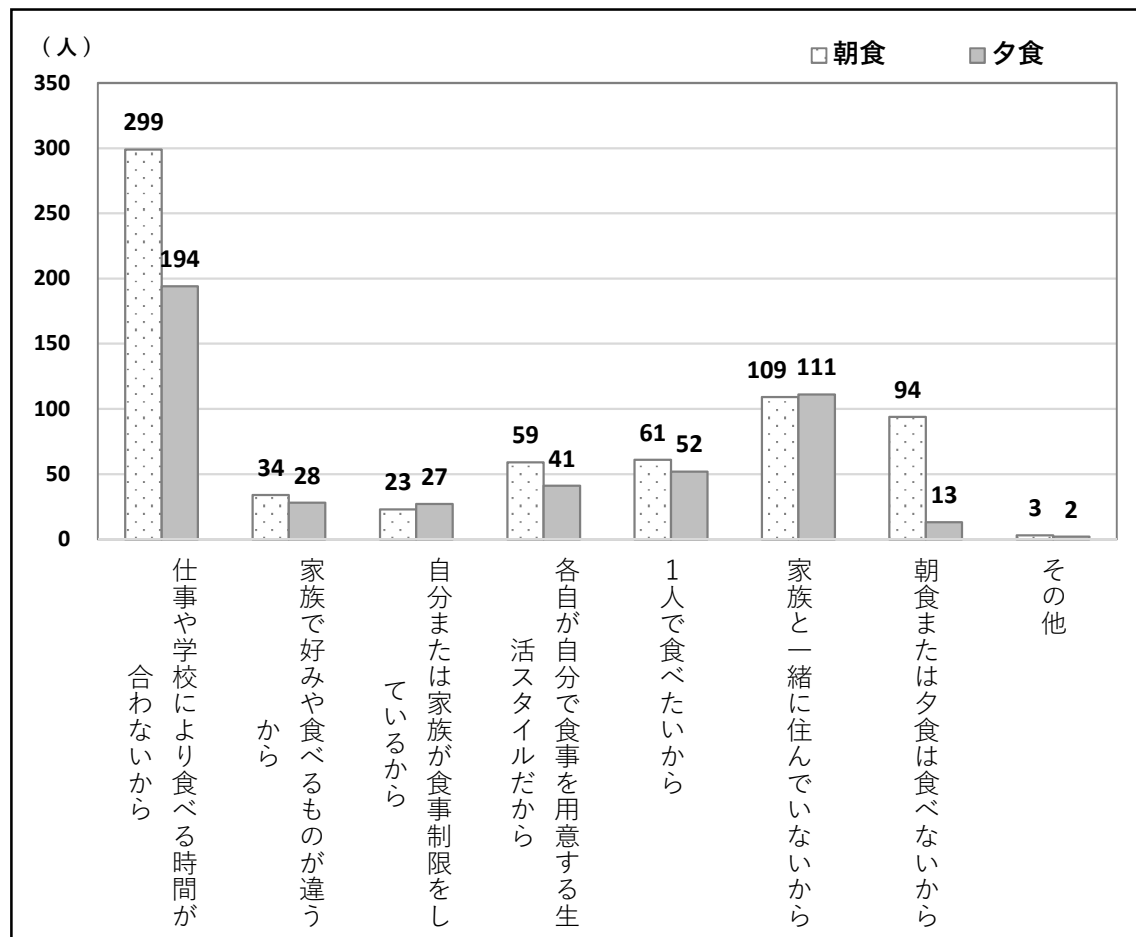
朝食を家族とほとんど共食しない者の割合は35.7%で、夕食の18.2%と比較すると高い傾向にあります。



出典 「令和5（2023）年 ネットリサーチ調査結果」（茨城県）

図50 家族と共食できない理由（茨城県・令和5年・18歳以上・複数回答）

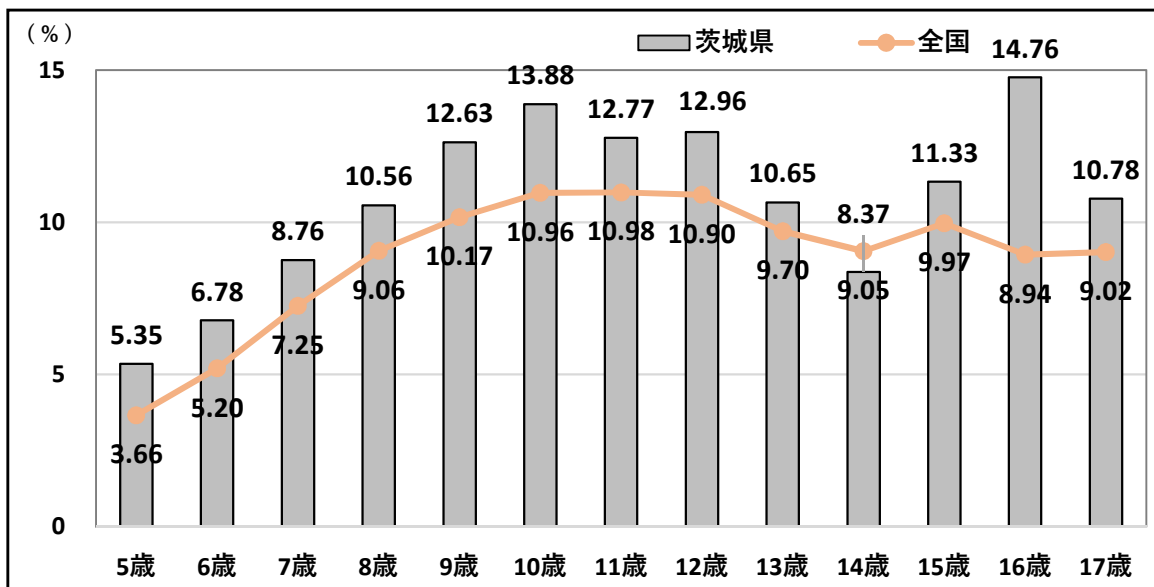
家族と共食できない理由として、朝食・夕食とも「仕事や学校により食べる時間が合わないから」が最も多い状況です。



出典 「令和5（2023）年 ネットリサーチ調査結果」（茨城県）

図51 児童及び生徒の肥満傾向児の割合（茨城県・令和3年度）

茨城県の子童及び生徒には肥満傾向児が多く、ほとんどの学年で全国値を上回っています。



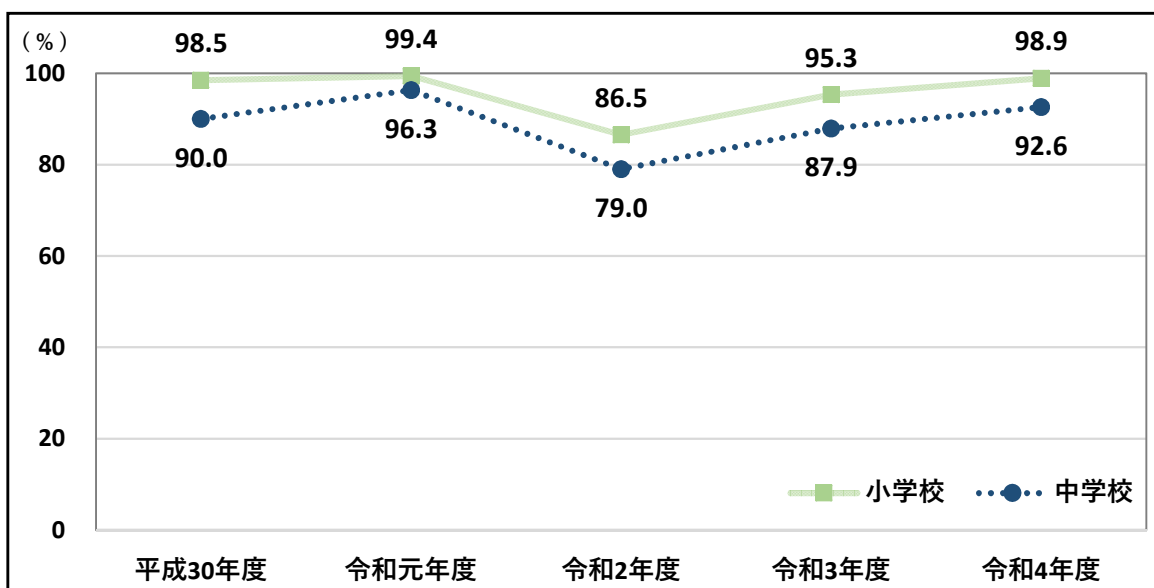
高度肥満傾向児
 性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

出典 「保健統計調査」（文部科学省）

図52 食に関する専門家等を活用した授業を実施している茨城県内の学校の割合の推移

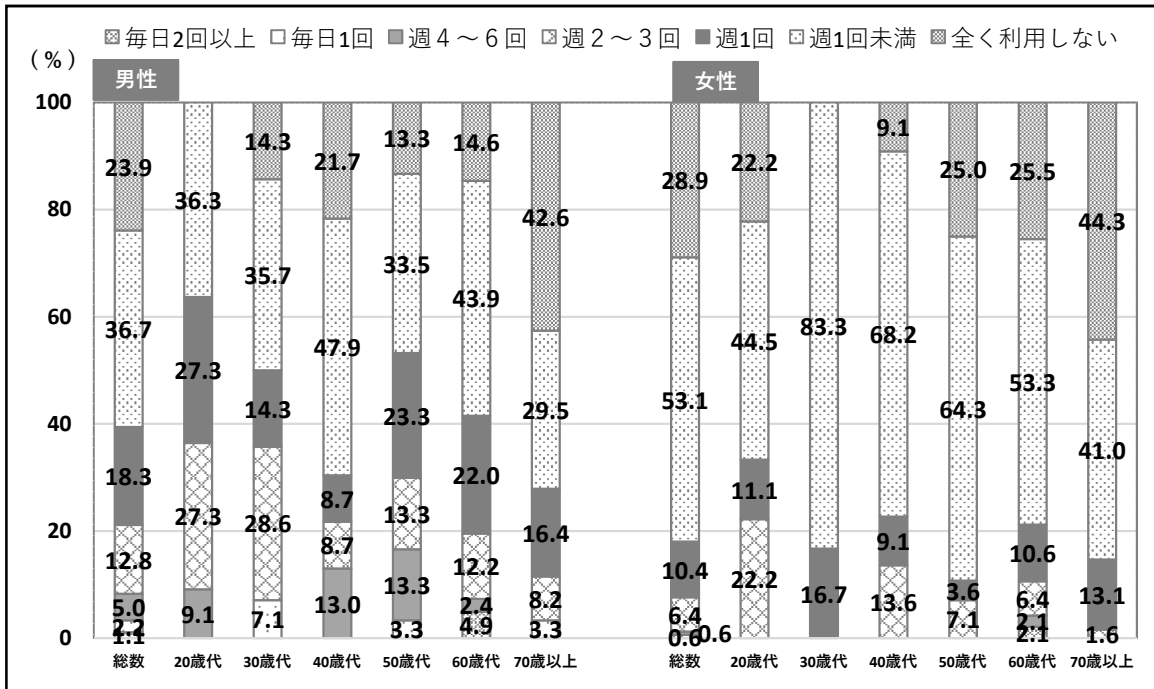
新型コロナウイルス感染症の影響により令和2（2020）年度は小学校、中学校とも悪化しましたが、令和4（2022）年度は9割以上の学校で実施されています。



出典 「食の専門家等を活用した授業の実施状況調査」（茨城県教育庁保健体育課）

図53 外食の利用頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）

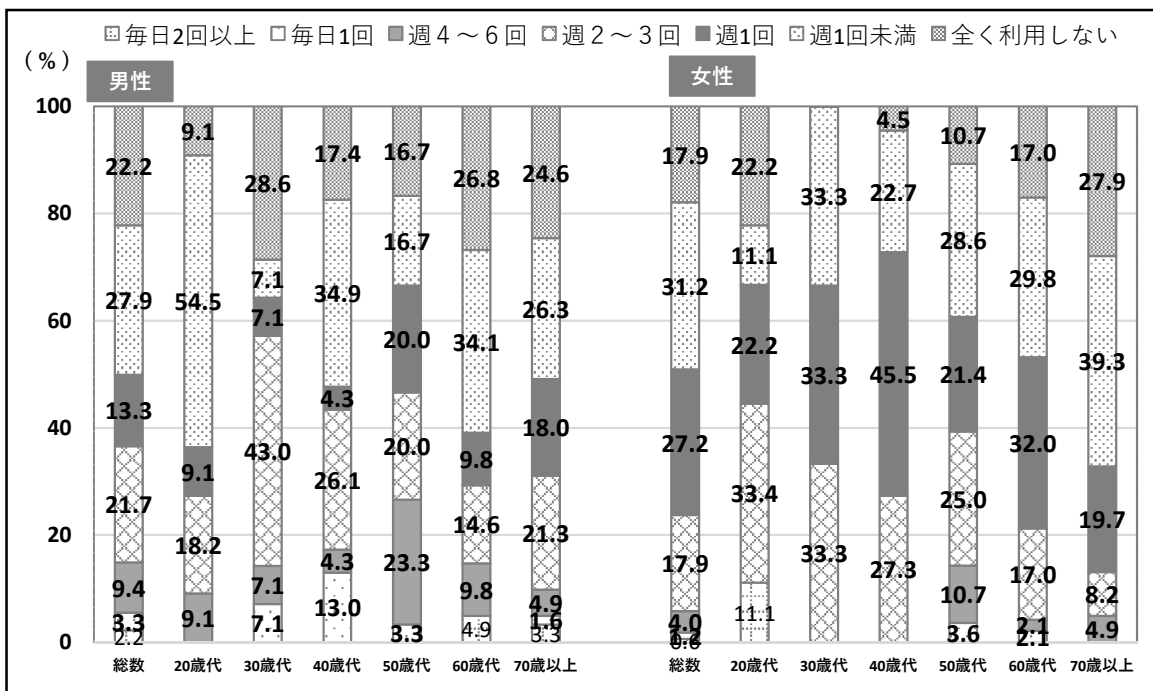
外食の利用頻度が週1回以上の者の割合は女性より男性で多く、男女とも20歳代が最も多い状況です。



出典 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図54 中食（持ち帰りの弁当・総菜）の利用頻度（茨城県・令和4年・20歳以上・年代別）

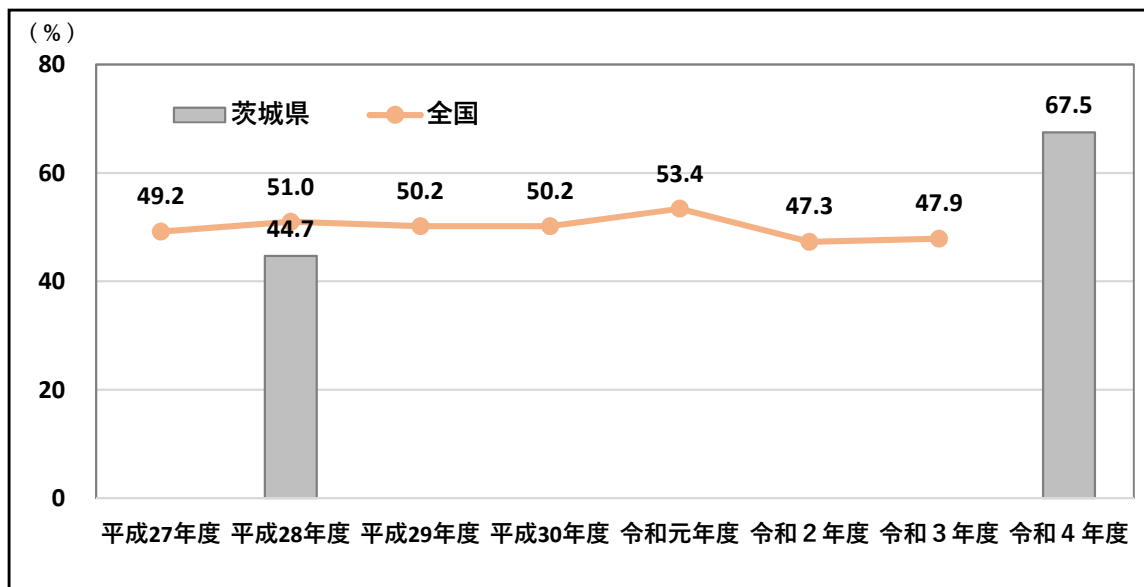
中食の利用頻度が週1回以上の者の割合、男性で30歳代から50歳代、女性で20歳代から40歳代で多い傾向にあります。



出典 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図55 ゆっくりよく噛んで食べる者の割合の推移（20歳以上）

ゆっくりよく噛んで食べる者の割合は、全国では横ばい傾向にありますが、茨城県では増加しています。



ゆっくりよく噛んで食べる者

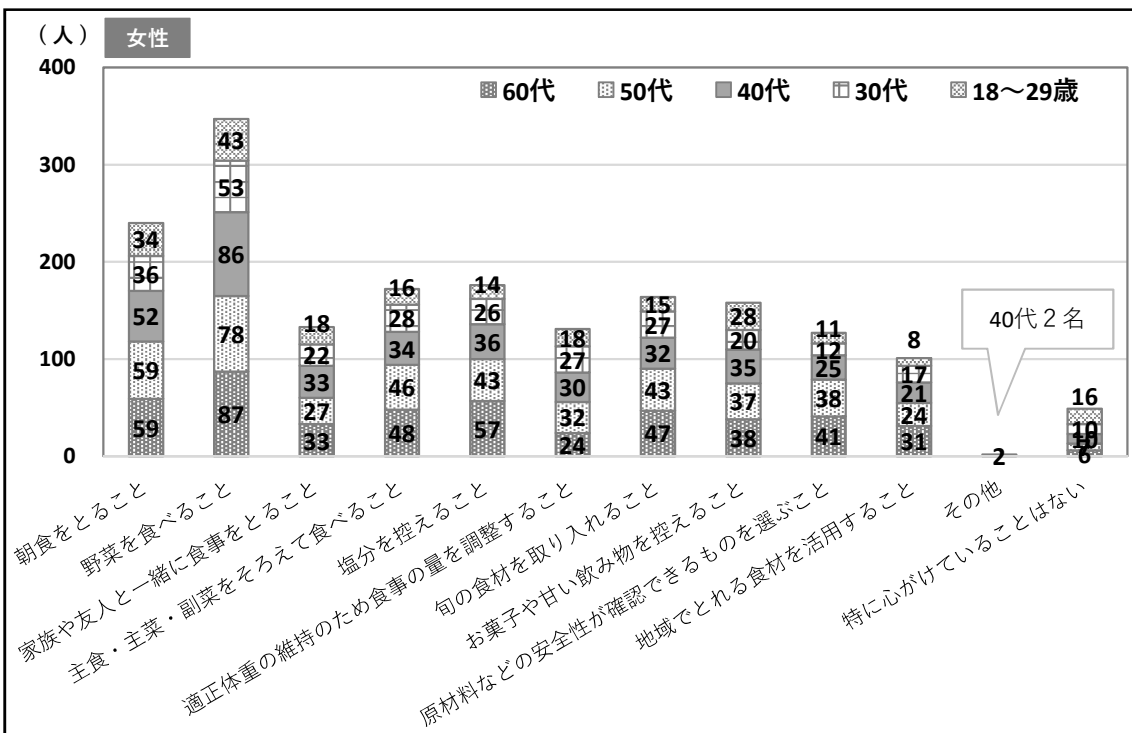
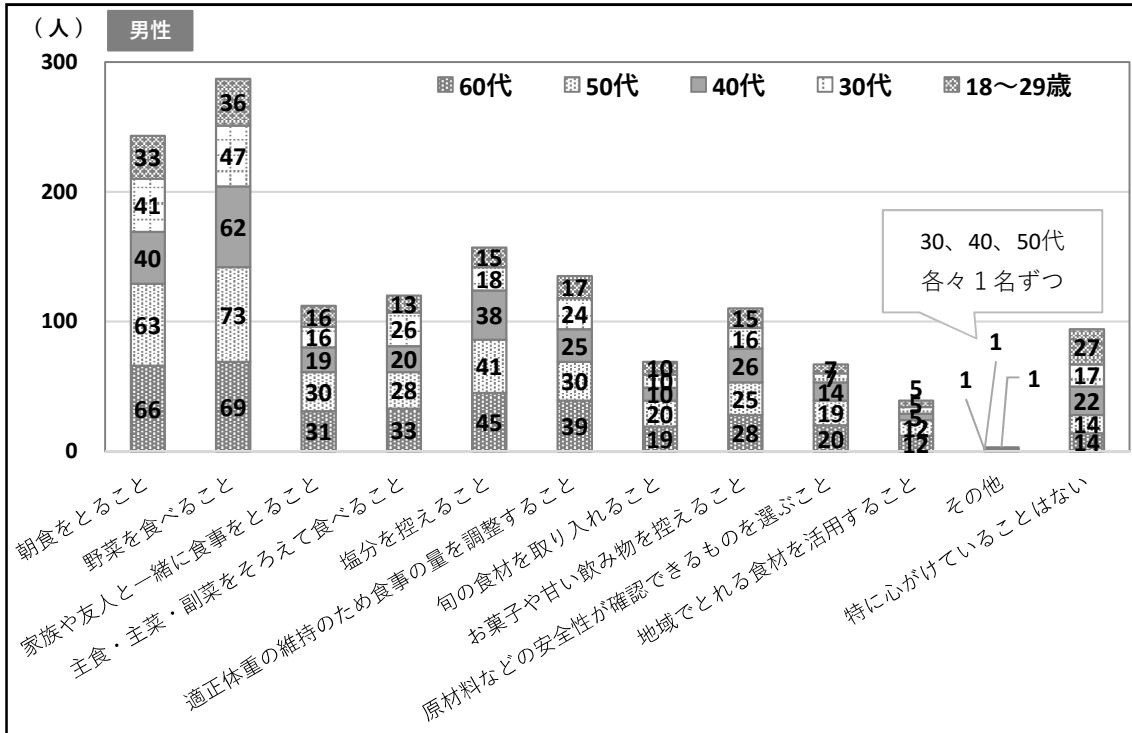
「あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか」の問いに対し、「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と回答した者の割合

出典 全国 「食育に関する意識調査」農林水産省（平成27（2015）年度は内閣府実施）

茨城県 「茨城県総合がん対策推進モニタリング調査」

図56 普段の食事で心がけていること（茨城県・令和5年・18歳以上・複数回答可）

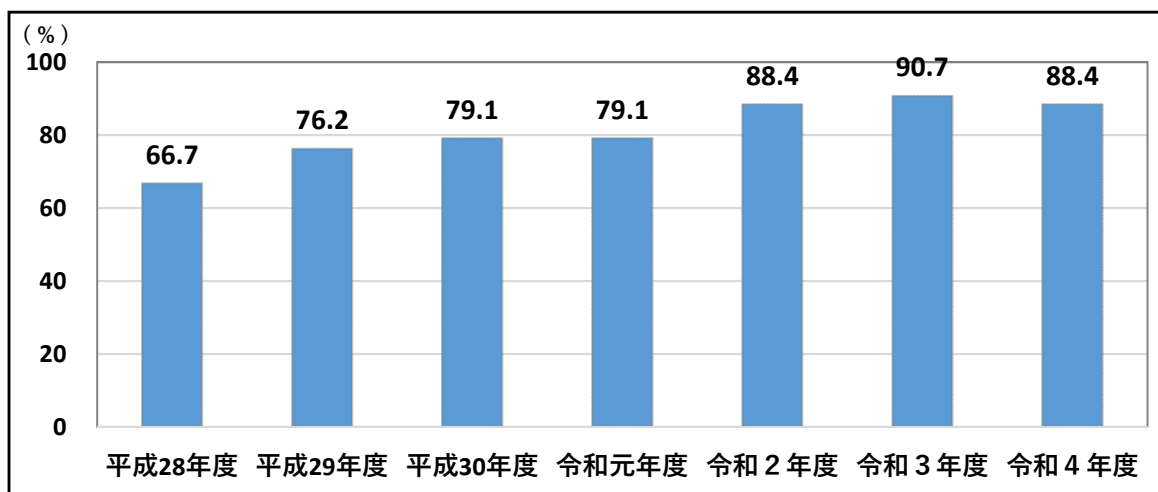
普段の食事で心がけていることは、全ての年代で男女とも「野菜を食べること」が最も多く、次いで「朝食をとること」となっています。



出典 「令和5（2023）年 ネットリサーチ調査結果」（茨城県）

図57 学校給食における地場産物活用率50%を超える茨城県内の市町村の割合の推移

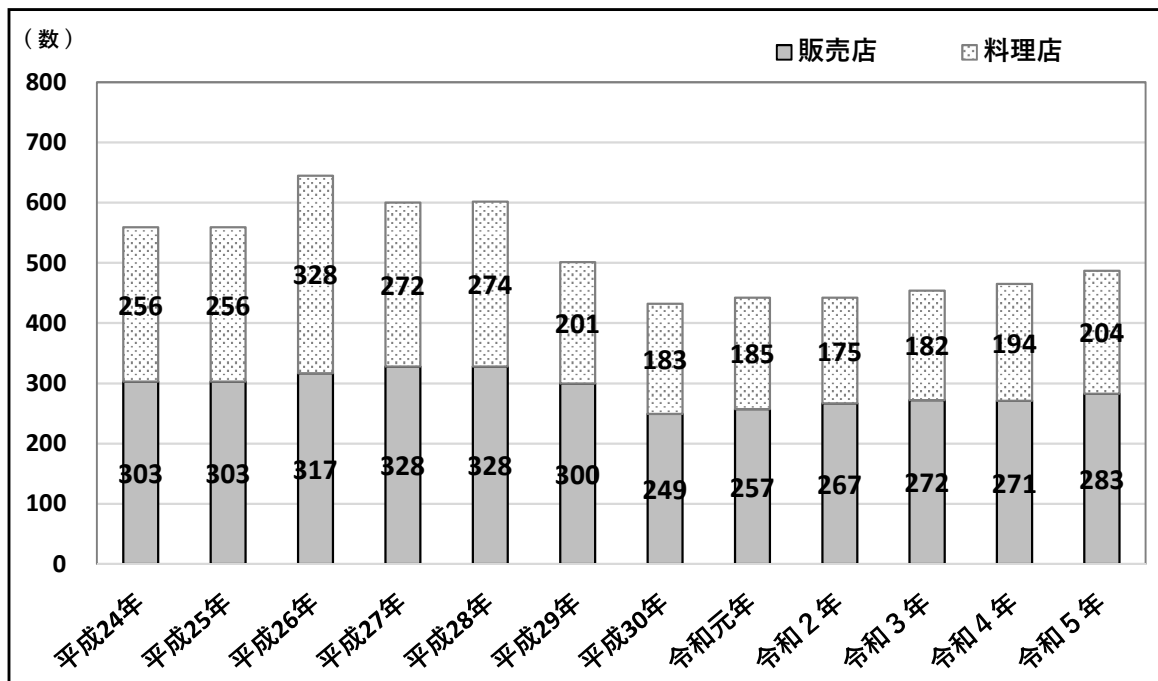
令和元（2019）年度までは増加傾向にありましたが、近年は横ばいです。



出典 「学校給食における地場産物の活用状況調査」（茨城県教育庁保健体育課）

図58 茨城県農林水産物取扱指定店数の推移

茨城県農林水産物取扱い指定店数は平成26（2014）年をピークに減少傾向にありましたが、近年は微増傾向にあります。



※店舗数は各年の4月1日時点

出典 茨城県営業戦略部販売流通課

図59 食品ロス発生量の推移

食品ロスは年々減少傾向にあります。家庭系（直接廃棄、過剰除去、食べ残し）よりも事業系（食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業）からの排出が多い状況です。

年度		平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	2030目標
全国値	合計	621	646	643	612	600	570	522	523	489
	事業系	339	357	352	328	324	309	275	279	273
	家庭系	282	289	291	284	276	261	247	244	216
国民1人当たり食品ロス量(g)		134g	139g	139g	132g	130g	124g	113g	114g	-
茨城県	合計	-	-	-	12.9~16.6	12.7~16.5	12.2~15.9	11.3~14.7	11.3~14.8	-
	事業系	-	-	-	6.8~10	6.8~10.1	6.6~9.8	6.0~9	6.1~9.2	-
	家庭系	-	-	-	6.05~6.56	5.88~6.36	5.58~6.02	5.29~5.68	5.20~5.61	-

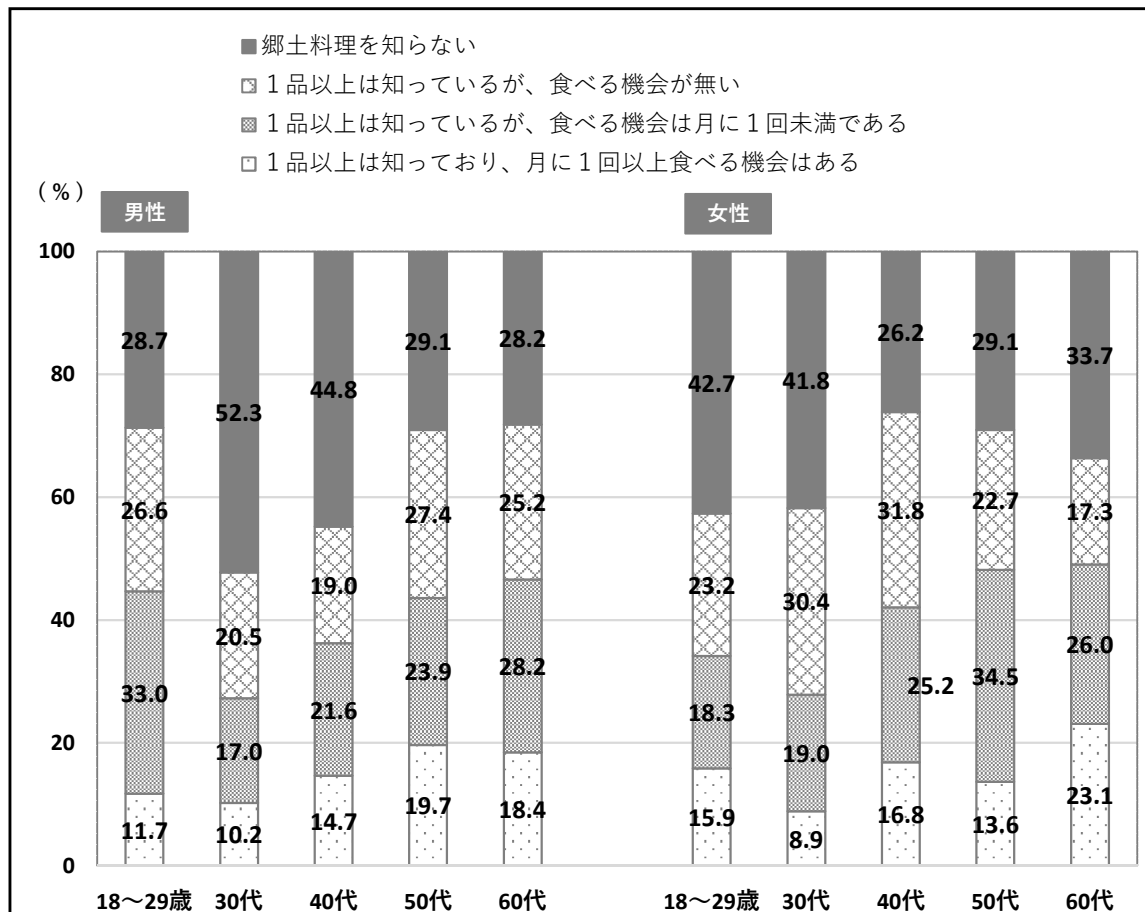
(万トン)

出典 全国 農林水産省HP（推計値）

茨城県 県民生活環境部資源循環推進課（推計値）

図60 茨城県の郷土料理を知っている県民の割合（令和5年・18歳以上）

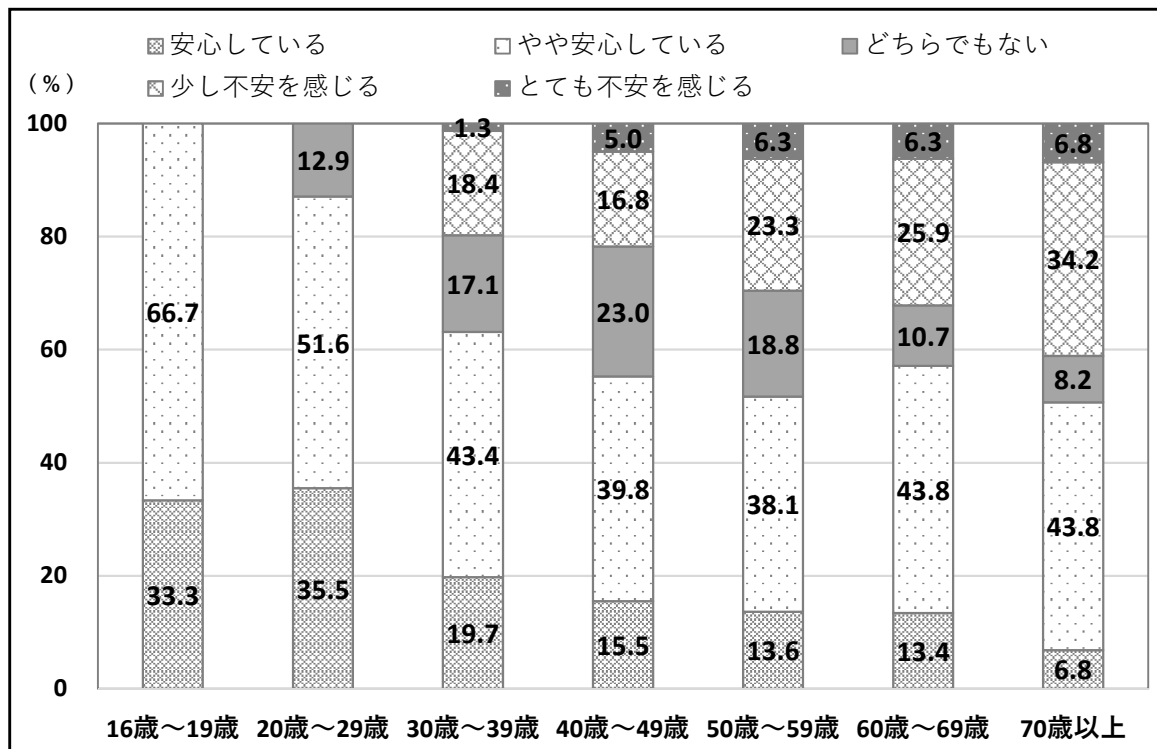
特に若い世代では「郷土料理を知らない」と回答した者の割合が高い傾向にあります。



出典 「令和5（2023）年 ネットリサーチ調査結果」（茨城県）

図61 食の安全に関する意識（茨城県・令和5年）

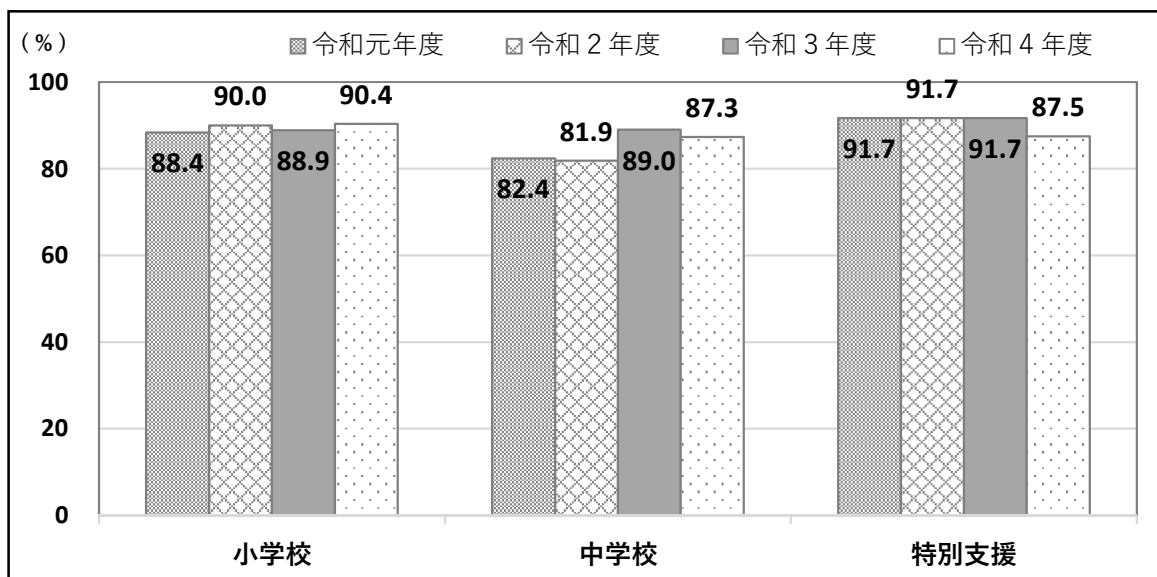
年代が上がるにつれ、食の安全に対し不安を感じる者の割合が多くなる傾向にあります。



出典 「令和5（2023）年 ネットリサーチ調査結果」（茨城県）

図62 食物アレルギー対応が必要な児童及び生徒が在籍する茨城県内の学校の割合の推移

いずれの校種においても、近年では8割以上の学校で、食物アレルギーに対する対応が必要な児童及び生徒が在籍しています。



出典 「学校保健・学校実態調査」（茨城県教育庁保健体育課）